

平成31(令和元)年度自己点検評価総評

平成31(令和元)年度 神戸市立小磯記念美術館自己点検評価について

神戸市立小磯記念美術館条例第1条は、美術に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に市民の利用に供し、その教養、調査研究等に資するために必要な事業を行うことを目的として、神戸市立小磯記念美術館を設置することを定めており、

同3条で第1条に掲げる目的を達成するために次に掲げる事業を行うとし、

- (1) 美術品、美術に関する文献、複製等の資料(以下「美術館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 美術館資料に関する専門的かつ技術的な調査研究を行うこと。
- (3) 美術館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (4) 講演会、講習会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (5) 他の美術館、学校その他の関係機関と連絡し、及び協力すること。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事業を定めている。

小磯記念美術館では、同条例第3条の事業について、(1)資料、(2)調査研究、(3)報告、(4)普及、(5)連携の5つを事業項目の柱として位置づけ、自己点検評価を実施する。

また、美術館事業を行うにあたり、美術館の経営についても考慮する必要があることから、(6)美術館の管理運営に関する事項についても、併せて自己点検評価を実施する。

平成31(令和元)年度の神戸市立小磯記念美術館自己点検評価の「総評」は下記のとおりです。

【総評】

トータル評価としては、事業項目6つのうち「資料」「調査研究」「普及」の3つがA、「報告」「連携」「運営」の3つがBとなった。

(1) 資料について「A」

資料については、35点の新規収蔵があり、特に小磯の《婦人像》(八千草薫肖像)の寄贈は前年暮れに亡くなった有名女優の意思に基づく寄贈ということで全国的に大きな報道となった。保存管理においても例年通り、くん蒸や未整理資料のための額を作成した。

展示では、常設展において解説パネルを充実したことや、特別展「神戸の暮らしをデザインする展」では夏休み企画として実施したワークショップに多くの家族連れが訪れ、あわせて展覧会を観覧し、2時間以上美術館を楽しむ光景が多く見られた。また、特別展「黄昏の絵画たち展」では、記念講演会や関連講座を積極的に開催するなど多くの来館者を集めた。

資料の市民利用という視点では、多くの方に足を運んでもらうことが必要であるが、今後、withコロナの時代の中でどのような取り組みが必要かを検討する必要がある。

(2) 調査研究について「A」

連携講座や、講演会、については、昨年の台風や年度末のコロナ禍による中止により件数は減っているが、研究成果として、これまで小磯の渡仏(1928-30、1960)については知られているが、アメリカとの関わりについて初めて踏み込んだことは注目される。

『神戸市史』では小磯芸術と記念美術館についての約2万5千字にのぼる記述がなされた。また、当館学芸員のエッセイも掲載された黄昏の絵画たち展図録が、美術館連絡協議会の優秀カタログ賞を受賞した。

美術館の展示や顕彰作家の紹介、講座開催など実施しながら、各学芸員の調査研究など負担にならないよう考慮する必要がある。

(3) 報告について「B」

例年どおり、特別展ごとの図録発行、年2回の美術館だより発行、年度末の年報の編集・公開を行った。

公式HPは神戸市共通HPを導入し、業者を介することなく随時こまめな編集が可能となった。また、公式フェイスブックは月平均12.5回の頻度で更新した。

昨今ではSNSによる情報発信は若い世代対策として必須でありコンスタントに続けていくことが必要である。

(4)普及について「A」

ギャラリーツアーを毎日曜日、マンスリーコンサートを毎月第3日曜日、美術講座を毎月第3金曜日に実施し、他に、講演会、夏休み特別企画に絡めた子供向け・大人向け講座等を適宜開催した。約半年の工事休館明けであったが、5月開催からのマンスリーコンサートは123人の参加があり定着した事業になっている。特別展に関連した講演会は参加者の満足度も高い。今後も継続的に実施を行うべき事業であるが各イベントについてはwithコロナの時代に即した開催方法の検討を要する。

(5)連携について「B」

所蔵作品の館外貸出(5件、26点)、画像の特別利用(7件、35点)を行い、小磯良平や神戸ゆかりの画家の芸術の普及に努めた。次年度以降も貸出の申請があれば積極的に対応したい。

また、学校園団体受け入れ(49校園・2,528人)と、出張授業(38回・1,106人)を行い、子供たちが美術館や芸術作品に触れる機会を提供した。秋に地域の大学や施設と連携してアートイベント「RICあそ美ば」を開催し、のべ約3,000人の集客があった。当イベントは国の補助事業で行ってきたが、今後は補助がないため、別の実施方法を検討する必要がある。

(6)管理運営事項について「B」

工事休館後の再開から、特別展「黄昏の絵画たち」までは順調に入館者数は推移していたが、年度末から開催の「人形を描く」展では、新型コロナウイルス感染症による、臨時休館や外出自粛等の影響により入館者数が急激に減った。入館者数に関しても今後のwithコロナの時代を見据えた目標設定を考慮する必要がある。

収支に関しては、コロナ禍の影響もあり、31年度の執行額は予算通りにはできなかった。引き続き小磯記念美術館の認知度アップを含め魅力ある美術館運営に努めていきたい。

以上の自己点検評価において、担当者自らも問題点・課題を意識することで、次年度に向けての改善点をスパイラルアップできるようPDCAを実施していく。